明治四十一年十二月二十二日 （火曜日） 京城新聞 第百四十一號 （一）

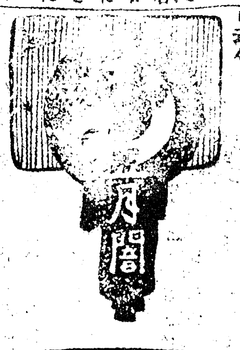
京城新聞

●ヘ博士の逸事（承前）（瑞典に於ける）

日く「自分は爆發藥ナイトログリセリンを發明し又四千は或はダイナマイト或は石油井の採掘器を發明若しくは發見して今日の富を造つたのであるが其の事業は根本に於て悉く破壞的事業であるから、自分はこの反對として如何しても今日までに造つた富の一部を平和的のものに費消したい。何は此發明は勿論學術の力に依つて得られたのであるから學術の方面にも使用し度い考へである、夫れでその方法として今後毎年四萬五千クローネ（我が二萬五千圓）を皇帝に上納して陛下の勅裁を仰ぎ以つて理學、化學、文學および醫學の研鑽者乃至平和の爲めに貢献せられたる人に頒ち度いと思ふ」といつてこの世を去られたそうである、されば皇帝も其の乞を容れ王は毎年この方法に依りて之れを頒ちたのであるから爾來瑞典人の學術に忠なる者にして之れが補助を受けたものは蓋し鮮少でないといふことだ即はち博士ヘイデン氏も實に之れが後援さ補助を受けた次第である處で平和の貢献者だ其後適當の人を見出だされなかつたのであるが日露戰を開いた當時、兩國の間にたちて之れが調停を試みられたのは米國大統領ルーズベルト氏であつたのを以て瑞典皇帝はそのルーズベルト氏を以てノーブル氏の所謂平和の貢献者なりとし氏に向つてこの金を贈つたといふことである云々（終）

●朝鮮米の前途

最近韓內地を視察したる某氏の談に曰く朝鮮米の將來は實に有望にして且恐るべき前途を有せり去卅五年輸出數量は五萬六千四百餘噸なりしが卅七八年我軍隊の韓國に入るに當り食料として供給されたるもの多く同年の輸出數量は一萬八千噸乃至一万二千餘噸に減じたるも邦人の耕作に從事する者増加したる昨四十年度は一擧十萬噸の上に出で米產地として無限の前途を有せるを見る然るに其精白事業の進歩せる亦驚くべきものあり其機械は多く米國式のものを用ゐ一晝夜能く三十石を精白し其精白されたる米は白紙にて掩はれたる卓上の硝子板にのせ一粒選となす各工場の撰別には日本婦人を用ゐ一人一日能く一石を仕上ぐる由韓國全工場の一晝夜精白高は四百乃至五百石に達す其賃銀は一日平均四十五錢にして一石四十五錢に當り其輸出は近時頓に大連牛莊浦鹽方面に發展したり由來同地方は我內地米の好華客地なりしが近時全く其跡を絶ちたるは全く朝鮮米の發達せし結果なり朝鮮米は玄米二石十圓內外にて搗減二割乃ち白米一石の價格は十二圓五十錢にして之に韓國輸出稅五分六十二錢五厘運賃諸掛費一切五十錢を加へ滿洲着の實價約十四圓なり而して其大連に於る市價は十四圓四十錢乃至七十錢の間にあり日本中米として賣捌かる內地米の販路に於て勢力なきは當然なり云々



（八十九） 河合柳葉

御家の柱石とも云はれし忠臣瀬川讃岐が放逐されたる後の御室家は、殆んど魔窟殿と變じて百鬼夜行の狀態である、爲雅侯は愛妾君子の蜜より甘い媚舌に乘せられて、君子ならでは夜も日も明けぬ逆せ方、山川は表面は飽くまで實兒らしく見せかけて、裏面に入つて見れば、爲雅侯の欽蹟を切つて君子と密會を樂み、大山は三年の戀を遂げて菊野と淫樂に耽り、後室三輪子は大山が急に餘所々々しくするので、何か他に戀女でも出來たのであらうと、猜嫉妬の焔を燃し、大山の姿さへ見れば事に托けて自分の室に呼び入れて、物狂はしき樣子で其薄情を罵り、一家淫風吹き荒むで嚴肅の家風に馴れて居た女中までが、自然に風習が亂れて今は他人に云はれてさへ顏紅らむる程の辭を、自分の口から吐いても當然の如く思ひ爲して、紊亂な家風に變つたので有る、されど、かゝる狀態になつても誰一人これを咎むるものもなければ、戒むる人もなく餘所ながら主家の体面に心を傾けて居る湯川も、力として目附役同樣屋敷にれいた娘菊野が、かゝる墮落に陷つたとは夢にも知らず、宅に歸つて來る度毎に、御家の樣子を詳しく尋ぬれば、心配した君子が來てから、以前に増して邸內が嚴肅になつて、召使の人々まで、が君子を尊敬すると物語るので、全く菊野の云ふ如くであらうと、娘を信ずる事が厚いと共に、其辭にも深く信を措て、自分の讒言したのを窃に恥じながら主家の繁榮を祈る程であつた。

然し最も面白き現象は、君子の權勢が日一日と高まつて來るに連れて、日頃最も召使どもの崇敬を拂つて居つた三輪子の權勢が反對に衰へて來る一事である。

胸に大望ある君子は召使に目をかける事が[illegible]で假初にも自分は侯爵の愛妾と云ふ顔もせずに、他の奉公人と同じやうに女中を呼ぶにも、必ず何々さんと、樣付にして、一つ崩した事はない、加之に些と外出しても供に連れた女中には、惜氣もなく反物とか宵地とかさなくば、上等の襟地とか買ひ與へると云ふ狀態で、それは／＼痒い所へ手の届く遣り方をするので、今は屋敷に召使はれて居る下男下女に至るまでが、主君の爲雅侯以上に敬服するに至つた。

それに引替へて、これまで御室家の全權を暗に握つて居た三輪子の方は、大山の自分に對する樣子が急に變つたゆゑ、これは屋敷に居る女中などに、怪しい女が出來たのではあるまいかと、嫉妬のために疑を起して、女中などを見るたびに、それとなく口喧しく戒めると云ふ狀態で女中などは寄ると集まると君子の思遣の宜いのと比較して、どうして後室はあの通り嚴しくなつたのであらうと、益々表面で服したやうに見せかけて、呼び立てられた時の外は、なるべく室に遠かるやうな風である。

歲暮大賣出し

來る十一日より廿五日まで
現金に限り
正札より壱割引
外に
見切反物
つりきれ類は
割引なし
特別大安賣

㊐ 京城本町四丁目 林呉服店 電話六五二番

京城本町五丁目 山口呉服店 電話九番

京城本町五丁目 山枝呉服店 電話二二四番

京城本町三丁目 丸一洋反物店 電話六三五番

京城本町三丁目 圓城呉服店 電話一五七番

京城本町二丁目 惠阪呉服店 電話七二六番

京城本町四丁目 末永呉服店 電話六八二番

歲暮大賣出し 正札より 割引

歐米雜貨 洋酒食料品 洋傢什器類 貴金屬美術品 直輸入商

京城本町二丁目 同 三丁目

辻屋

本店 電話二四八番
支店 電話三六六番

新柄の割梓あり地帯あげ肩掛新調其他種々 京城明治町一丁目 龜屋德商店

●韓京覺帳（第十） 水浪生

●李口を開くやまつ冒頭に於て自家の閲歷を語り徐ち言を進めて曰く余は元來日本黨にもあらずまた露西亞黨にも非ず只時の勢に從つて進退し來りしのみ彼の家兄李允用等と我君主を露國公使館に移らしめ露公使と一時提携したるは所謂時の勢に從ひたるものなり。

●而れども余は朝鮮人なり東洋人なり何を苦んでか洋鬼の爪牙となり手先となりて東洋を危ふするの愚擧を爲さんや只當時に於ては日本の勢力餘りに微弱にして到底頼むに足らざりし故に余は一時の同志と共に時節を待たんが爲め表面露西亞黨となりたるなり。

●余等の計畫は露公使の看破するところとならず君主露國公使館に留まるに及んで着々行はれたり而れども記臆せよ余は朝鮮人にして東洋人なり心の底より露公使に隨從するものにあらず曷んぞ彼が野心を遂行するの具となり得べけんや。

●露國の勢力半島に充滿せる折柄露國公使は半島縦貫鐵道敷設の特許を得んことを欲せり、而れども彼公使は自家が正面より韓政府に要求して日本の抗議に逢はんことを慮れり仍つて彼は露の同盟國なる佛國人某をして佛公使を通じて韓政府に縦貫鐵道敷設特許を要求せしめたり。

●余は當時外部大臣たりしを以て直接佛國公使の談判を受けまた露國公使の間接的勸誘說明をも受けたり、余以爲らく佛人の要求は露公使の要求なり若し韓政府にして本鐵道の敷設特許を與ふるに於ては露國は其南下政策を遂行する爲直に軍用鐵道を敷設し必ず日本を迫害せんと試むるなるべし。

●露西亞の日本に對する迫害は東洋諸國一般に對するの迫害なり、余は斷じて本鐵道の敷設權を露國に與ふべからず、斯く決心の鞘を堅めたる余は佛公使の要求も、露公使の勸誘も良き加減にあしらひ最後に於て之を拒絶したり、若しも余にして佛公使の要求に應ぜば日露の關係は今日如何なる狀態にあるべき。

●余が前述の如く苦心に苦心を重ねて佛國公使の要求を斥け後ち日本をして本鐵道の敷設特許を得せしめたるに拘はらず日本公使は常に余を目するに露西亞黨を以てし事毎に余を排斥することに勉めて餘さず統監伊藤公の如きも公使の言を信じて余を排斥するもの〻如く斯ては余に於て決して浮む瀨あらざるべきなり。

●余李を慰めて曰く貴說の如くんば日本側が君を誤解する又甚しと云ふべし、君にして余に打明ることが如斯なるに於ては余も今後は君の一身を包める誤解を除くことに盡力すべし否百步を進め次第に因ては統監と君とを握手せしめ韓の政界に於て君を中心的人物と爲すことを計るべし。

●李余に向つて曰く從來日本人にして君の如く余に對して同情の言を吐きたる者なし一體君は眞實何人にしてまた何の目的を有する人なるか、余答て曰く余に就て深く知らんことを欲せば宜敷君の親友ステーブンス氏に質せと茲に袂を別つて余は李邸を辭す。

東京電報

▲韓太子の鴨獵 韓國皇太子殿下は趙侍從武官其他を隨へ新濱御獵場に鴨獵あらせられ夥多の獲物ありたり

▲拓殖株の分割 東洋拓殖會社は株券の分割を望む者多きより分割規程を設け左の通り代理店に通知せり

一 已むを得ざる事由により分割をなす際には領收書に但番號を附すること

一 株券は領收書と引換に交換すべき筈につき但番號の領收書を所持する者は各條を同時に會社に提出して株券の引續を受くること

一 領收書の各號を各別に提出して株券の引換を請求するも會社は應ぜざること

▲南滿の配當 南滿鐵道會社總會を開き年六步の配當を可決す

▲南滿總裁任命 中村是公南滿總裁に岡澤新兵同副總裁仰付らる

▲親任式擧行 侍從武官長第四師團長第九師團長の親任式二十二日擧行さる(以上十九日發)

▲井上大將葬儀 井上大將明日葬儀に就き高崎大坂府知事を同邸に差遣し尚兩陛下より祭粢料二千五百圓下賜さる

▲南滿社債の好況 南滿社債は十七日倫敦だけ締切りとなり同地のみにて申込十倍半に達す(以上二十日發)

▲軍司令官交迭 今朝親補式あり大久保第三師團長は駐韓軍司令官に長谷川駐韓軍司令官は軍事參議官に本田駐韓軍參謀長は下の關要塞司令官に補せらる(二十一日發)

雜報

●統監更迭說 伊藤統監は既に韓國行政制度改革の一半を終へ餘すところは枝葉の問題のみなれば此際樞密院に入りて閑散なる元老の位置に就くの意なきにあらず茲に於て桂侯は寺內陸相が近々椅子を退くの意あるを機とし之を推して統監たらしめんと既に其內意を傳ふるところあり第二十五議會の無事閉會を待て多分事實として現はるべしと傳へらる

●明年度豫算 度支部各部間に於て目下交渉中の明年度豫算は昨日を以て其の交渉終了する筈にて本日開會の參與官會議大臣會議を經て確定せらるゝ運びなりと云ふ

●東拓幹部組織 東洋拓殖會社創立事務は漸次其の步を進め既記の如く來二十八日其の第一回總會を開く迄に至りたるを以て宇佐川中將は明十七日より創立に關する諸事務引續受領並に發表準備の爲正式に其の幹部組織に着手する筈なり尚ほ中將の總裁任命も陸軍大交迭と相前後して發表を見るべし

●天寶山官營計畫 邦人中野次郎氏及清商某との合同事業たりし吉林天寶山の礦山採掘は曩きに清國官憲之れが採掘を禁止せしめて封禁せる爲めに先般來交渉中なるにも拘らず徐總督及朱吉林巡撫は今回之れを官辦事業と爲して開辦するの計畫を定め其の資金は民間より株金を募集せむと企てたるも商界の不景氣なると商民危惧心ありて之れに應ぜざるより更に滿洲各地の稅關より支辯せしむることゝ爲したりと

●曾禰副統監參內 曾禰副統監には國分、佐竹の兩秘書官を隨へヘヂン博士を帶同して昨日午前十一時參內韓皇に謁見せり

●長谷川軍司令官謁見 別項曾禰副監と同時に長谷川司令官には參內韓皇に謁見せり

●ヘヂン博士の退京 ヘ博士は本日午前八時四十分南大門發列車にて北行せられ奉天に至り旅順に向ひ夫れより歸國せらるゝ筈なり

●法令審查委員會 內部に於て豫て審查中の法令審查委員會は本日同部に於て開催せり

●滿鐵經營旅館近狀 滿鐵經營の旅館は現下大連旅順長春の三箇所なるが大連は近時歐州歸り外客の增加の爲め不足を感ずる盛況なり之に次ぎ長春は急行列車以外乘客の往復の爲め十一月の如きは四十九名宿泊者あり將來吉長鐵道の竣成と共に一層隆昌を來すべき歟反之旅順は北清隨一の温暖地にして外客の避寒地に適するにも拘らず鎭守府並要塞の設けある爲め以て自由の旅客來往に便ならざるが爲め廣大なる家屋を有するも常に宿泊者の稀少なるを甚だ遺憾とするのみ然れども滿鐵會社に於ては殆ど一文の收益なきをも省みず旅客の便利を圖る目的を以て長春大連に於て宏壯なる家屋を新築すると同時に奉天撫順の二箇所にも適當なる旅館を新設中なるが遲くも來年半頃までには全部落成開業する豫定なりと云ふ

●水產協議會（六日目） 二十日は日曜の休業日なるも會務の進行を計る爲め特に開會したるがその要項は諮問事項第二、漁業法に依り水產動植物の蕃殖保護人の爲め禁止制限を要するものと認むる事項及び其の施行方法に付き調查委員の意見書に依り議事を開き實際に於て禁止制限を要するものと認むる事件數項を議了し次で諮問事項第三、定置漁業其他の免許漁業中其の權利保護の爲め漁場又は漁具漁法に對し第三者の漁業行爲を制限すべき必要ありと認むる事項及び其種別方法を議事に附し其の結果は漁業法第二條に該當する免許漁業に對し其の漁場の保護區域を設け該區域內に於ける第三者の行爲を制限するの必要ありとして各種漁網に對し若干距離間は他の漁業者をして妄りに侵害せしめざることゝし之れが距離の間數を數くることゝなしたり、次で諮問事項第四、一般水產業に就き公益上特に保護取締りを要すべき事項の有無並に之れありとせば其の種別及び方法に付き議事を開き調查委員より提出せる意見の全部に對し何れも贊成を表し其議事を了し午後五時散會せり尚二十一日は前項距離の間數に付き協議したり

●水產協議會延期 目下開會中の水產技術官協議會は協議事項多數にして豫定の通り議了するを得ざるを以て一兩日延期せらるべき事は既報の如くなるが愈々本月二十三日迄延期することに決せられたり

●民團合併反對上申（承前） 而して大農法は理論に於て可なるも日本に適せず地勢大陸と異なれば也遞信省外に鐵道廳を置かれたるは事務の混同を防ぐの要ありたれば也なり兎角空談放言の徒膨大を喜んで蠢弄を問はず誤れるかな近く京城民團區城の中にありても東西二部の軋轢絶へざるにあらずや漫りに京城龍山を合併し歷史感情目的の同じからざる兩居留地の代表者を一堂に會せしめて能く軋轢誤解反目の虞なしとするか却つて之を兩立せしめて各々獨ふ處に專心從事せしむるを以て利とせずや此等は輕卒に斷じ得べきことにあらず經驗ある政治家を以て往々躊躇の色あるは結果の豫想すべからざるものあればなり之を要するに我龍山居留民は今回理事官に依りて轉聞せられたる兩民團合併案に反對の意を表明す而も其時期を得ざるのみならず我龍山民團の利益と体面を維持せしむるに足る對等の合併案にあらざれば也依然獨立の民團を維持し健實なる基礎の上に居留地の發展を計らんと欲す

一 龍山人口年度別比較表

年度	卅七年度	卅八年度	卅九年度
人員	一五三人	二四人	二、三七九人

年度	四十年度	四十一年度
人員	三、一四三人	六、七五六人

二 龍山戶數年度別比較表

年度	卅七年度	卅八年度	卅九年度
戶數	三五戶	四三戶	五八四戶

年度	四十年度	四十一年度
戶數	一、五〇〇戶	二、三六六戶

三 龍山土地年度別比較表

年度	卅七年度	卅八年度	卅九年度
土地 宅地	六、四〇六坪	七、三二四坪	八、二四〇坪
田地	一、四〇二	一、七一二	二四、〇〇〇
山野	不明	不明	三、八六三

年度	四十年度	四十一年度
土地 宅地	三〇、〇三一坪	四七、〇三三坪
田地	二三六、八〇三	一四三、九七〇
山野	一七四、九九九	一七四、九九九

●ヘ博士へ御下問 二十一日韓皇に謁見せるヘヂン博士は謁見の際韓皇より二十三年間の博士の探險を御下問あり博士は之に奉答したるに對し韓皇には誠に大なる旅行なりし由御諚あり尚博士は退出後伊藤統監曾禰副統監長谷川大將木內次官石塚參與官市原一銀總支配人等を歷訪せり次に博士は歸歐の上二月八日迄に倫敦に於て講演をなすべきに依り大連旅順の視察も中止することゝなれりと

●五十八銀行の合併問題 豫て報道したる五八對百三十銀行合併問題に就き當局者の語る處に據れば來る二十四日兩社とも株主總會を開く筈にて其の結果に依り或は合併を見るやも圖られずと

●韓國舊白銅貨 韓國舊白銅貨二錢五厘の交換は客月三十日限廢止せられたるも公納に限り右期限後六ケ月間使用することを得る筈にて明年五月末日迄は民團稅、商業會議所課金等に使用するも差支なく又右舊貨は何時にても交換することを得べしといふ

●宮內次官の招待宴 小宮宮內次官は本日夜花月に於て宮內府の高等官以上を招待し晩餐會を開く筈なりと

●米國總領事の招宴 既報の如く米國總領事は昨日午後七時より伊藤統監始め各大臣ヘヂン博士等重なる人々を招き晩餐會を催せり

●伊領事の長崎行 伊太利總領事は令孃と共に長崎に向け二十日午前八時南大門を出發せり

●ヘ博士の西島中將訪問 ヘヂン博士は明石少將井上雅二氏と共に二十日午後龍山に西島第六師團長を訪問し兵營を視察せり

●官吏の年末賞與 既報の如く官吏の年末賞與金は當該官廳に於て豫て調查中の處此程愈々調查終了したるを以て來る二十三四日頃迄には遲くも實與あるべしと

●巡查採用試驗 二十一日巡查練習所に於て日本人巡查採用試驗を擧行したるが採用員數は約三十名也

●平壤農林講習所 同所は本年六月を以て開設したるものなるが其講習科目は栽培學、園藝學、土壤學、肥料學、林學、測量學、養蠶學及日語にして修業年限一ケ年の夜學講習所なり、講師には勸業模範場技師花井藤一郞氏外四名無報酬を以て之れに當り居れるが現在生徒數は三十五名にして生徒は漸次農林學の趣味を解し來り熱心に學業に從事し居れりと云ふ尚來年度よりは生徒を增募する由

●穀物協會協議會 仁川穀物協會にては一昨日午後二時より同協會樓上に於いて役員會を開き前號報導せる仁川精米所の請願に關する協議會を開きたるが詳細は次號に報導する所あるべし

●潮流調查完成 仁川港灣潮流調查は數月前より建築所仁川出張所にて續行し居たるが同調查は此程全部終りを告げ目下二三の附隨調查をなし居れる由なるがこれ亦來春十日頃に完成を告ぐべしと云ふ

●南浦航行船終航 仁川鎭南浦間の航路は每年今頃を以て終航を告げ居れるが本年は例に比し氣候頗る温暖にして鎭南浦近海には未だ流氷を認めざる程なれば大阪商船會社にては終航を延期し來る二十五日仁川出帆の豫定なる甚際丸を以て終航とすることに決したるが今後氣候尚温暖なるに於いては或は今一往を增航せしむるやも計られずと云ふ

●定期航海船の座礁 仁川海州間の定期航行船安東丸は過日江華島月串近海に於て坐礁したるが同船に積載せる郵便物は坐礁當時同地點を通航せる仁川吉貴組第十七船に移積して仁川に輸送したるを以て安全なることを得たりと云ふ

●鴨綠江連絡客 二十一日新義州安東縣間の氷上を徒にて連絡客及貨物の輸送を取扱居りしが昨今暖氣の爲め結氷一部融解せしにより一時中止することゝなれり

●京城の時刻に就き 去月午砲龍山に移りてより京城各所の時計區々となり實に不便尠からず依て何れ適當の設備あるまで當分の間東署馬頭山上の京城測候所（電話八百六十七）へ何時にても問ひ合せは即時正確なる時刻を回答せらるゝ由

●京城局の年賀郵便 京城郵便局に於ける本月十五日より廿日迄の年賀郵便は約六千に及びたる由なるが歲末に遲れば多忙の爲め取扱上不便を見るを以て此際特別取扱を申出づべしと

●民團の年末賞與 京城民團役所に於ては吏員の年末賞與に付き豫て調查中の處一昨日を以て愈々終了したるを以て本日頃發表せらるゝならん

●明治大學校友會の忘年會 在京明治大學校友忘年會は昨廿日午後三時より花月樓に開催したり當日の出席者は小宮宮內府次官、野澤法官養成所長、山口京城控訴院部長、大谷同地方裁判所長、高橋辯護士外四十名にして紅裙連の舞曲、其他各自得意の隱藝等出で午後十時過散會したりが頗る盛會なりしと

●水原新聞の廢刊 水原に於て發刊せし水原新聞は去る十九日廢刊せり

●明石憲兵隊長の兼任 明石憲兵隊長は駐韓軍參謀長に兼任せり

●本多通譯官の出張 統監府通譯官本多駒次郎氏はヘヂン博士見送りの爲め一週間の豫定を以て安東縣へ出張、今日午後八時四十分南大門發列車にてヘ博士と同行の筈

●服部囑托の歸任 曩きに公務の爲め東京へ出張中の同氏は昨日歸任せり

●豐誠警部長の來京 慶尙南道警察部長警視豐誠寬氏一昨夜來京昨日內部に出頭す

●阪東警視歸任 來城中の江原道警察部長警視坂東榮次郞氏は二十日歸任せり

▲小筆硯▼

北漢山嵐肌を劈き寒氣俄かに身に染み亘る時候となツた所で統監伊藤公には此の嚴寒を避けんが爲め馬關又は馬山浦に赴くとかの噂さがあるが若し事實とすれば甚だ以て怪訝の沙汰である成程普通の人民は昨今の嚴寒に避易するであらうが統監にあつては恐らく堪へ難き寒さといふことを知らぬ筈である二六時中ストーブの暖氣身に遊びブランデーの微醺五体に快く恰かも春陽三月の時候をその儘だらうと思ふ而も公は長白山頭に骨を埋むと豪語したにも似合はず避寒しやうなどゝいふ誤心底はソリャ餘りに聞へませぬといふものであるそれならば始めから韓國に來らずに寒暑宜しきを得たる大磯に居るがよかつたではないか尤も這は悉く風說に過ぎぬが纔硯子は其のやうなことはあるまいと確く信じ又斯く信ずるを欲するのである▲明年度の豫算に就ては各部が夥多の增額を主張する爲め大分度支部が困却の体らしい幾度參與官會議に持ち出した所で旨く纏る筈が無いのは始めから判り切つた事だ無い袖が何うして振れるものかツマリ此の歲入の不足といふは徵稅の不足から來るもので其の徵稅の不足といふはザッと二ツの原因から根ざすものである一は地方暴徒の影響と他は精神上よりの障害である暴徒の影響とはいふ迄もなく一般の地方民が暴徒の爲めに荒らされ又は迫害を受くるが爲めに稅等の收入に影響を受け從つて租稅滯納むるを止むが困難なのであるからである次に精神上からの障害といふは外でもないが地方の人民が現今の政治をば左程難有思つて居らぬ結果勢ひ納稅を怠るやうになるのである●●●然るに其の根本を究めずして唯歲入が無いから〳〵では收得が附くものではない

●日付の客二人

▲敷島高砂樓の捕物
▲賊に縁ある菊之助

仁川敷島遊廓第一高砂樓にて敷田前田中馬太郎と云ふが亂暴を働き引致せられたることは豫て記載したるが馬太郎が亂暴なしたる原因と云ふが頗る面白ければ改めて報せんに馬太郎は豫てより同樓の菊之助と云ふを買ひ馴染み又菊之助も憎からず思ひ稀には身上りまでして嬉しき逢ふ瀬を重ね居たるが此日馬太郎は無一文にて同樓に至り菊之助を呼び出し今夜丈都合せよと云ひたるに節期間際のことゝて菊之助は今夜は一文もないと斷りたれば馬太郎はそれでは貸入れして來るから待つて居れと言葉を遺して立ち去りたる後に年の頃二十計りなる洋服姿の粹な若者が入り來り聲高かに浪花節の野狐三次を語りたるに菊之助は大の浮かれ節黨なれば聽聞きたるのみにて早くも惚れ込み今一段語り呉れと頼みたるに此男も好い氣になりさらばと又も松竹梅を語りたり、菊之助は聲を聞き且つ姿を見るに及んで身もよもあらず、ゾクゾク惚れ込み先きに馬太郎と約束したることも打ち忘れ身揚りして登樓せしめたるまでは好かりしが程經て馬太郎は金の工夫して立ち歸り直に登樓して菊之助を呼べど仲居に命したる所前記の始末なるにぞ烈火の如く憤り果てはナイフを拔き放ち亂暴を働きたるものなるが茲に又不思議なるが馬太郎は有名なるインチキ師にて土佐馬と異名を執りたる程のものにて後の浪花節語りは岡山生れの泥棒にて伊藤近造と云ふものなりしが出張せる警官は馬太郎を引致したる後又もや近造を逮捕し目下仁川署にて取り調べ中なるが菊之助もインチキ師を捨て泥棒に乗り換ゆるとは能々因果な女郎ならずや

●散彈爆發して負傷

▲危險なる小兒の遊戲

本町九丁目十二番地平民大工横尾常市弟横尾鐵藏（九）本町十丁目三番地農山下喜太郎長男山下虎藏（八）本町九丁目十七番地農河野源次郎長男河野条（七）の三人は平常至つて仲の好き友達にて此頃は新町三丁目裏光雲寺の住職金武關鐵へ讀書の稽古に通つてゐるが一昨日は日曜の事とて休課され『早く月曜が來れば好きが』と三人寄つて面白く遊戲をしてありたるに急に住職さんの顏が見たくなり『住職さんの家に遊びに行てうではないか』と午後四時半頃三人は左も樂しそうに連れ立ち活潑に『碧し里』の軍歌を唄ひつゝ新町……と六百八十……に散彈箱が一個捨てゝあるよりヤレ嬉れし……聞にかゝると其處……いと拾つて住職さんの處へ行けば住職順道は『れゝ寒いのによく來た』と火鉢を與へ順道は他室で所用をしてゐると聽て耳をも劈く計り大きな爆聲起ると同時に小供の泣聲の立ちたるより順道は驚いて現場に驅けつけ見れば室は硝烟に籠ち三人中粂の双手は鮮血淋漓として泣き倒れ居るより直樣應急の手當を施し濟城病院に送りたるが傷は意外に輕く一週間位にて退院すべしと云ふが原因は豫り二人の小供につき尋ぬるに右散彈箱を粂が金火箸にていぢり居りたる爲め爆發したるなりと云へば火氣が散彈に附着し火藥に移りたるに依るべしと云ふ

●大賊三人の就縛

▲京釜間を荒せし奴
▲敷島遊廓豪遊の客

仁川警察署敗下、今井、石川の三刑事は一昨日三人組の大賊を捕縛し目下野村警部の手元に於いて取調べをなし居たるが此の三人組の賊は釜山、水原、龍山、京城等各所に於いて窃盗を働きたる末仁川に流れ來り同地にても數箇所に忍入り金品を窃取し敷島遊廓各樓に登樓して豪遊を極め居たる者にて犯罪の關係も極めて廣く、窃取價格も又頗る多ければ目下餘罪捜査中なるを以て詳細は追て報導すべし

●文林堂の店員捕はる

▲主人の金を誤魔化し逃亡

當地本町三丁目町田文林堂の店員たりし岡山縣神崎郡山田村井上貞次（三）は豫てより文林堂に雇はれ居たりしが此奴尻が温まり多少の金の自由になる所より惡心を起し本年八月八日店の賣上代金七十三圓二十錢を誤魔化しなほ同月廿一日四十八圓八十錢をも猪呂魔化し居り其のつゝめの合はぬより去る十二日夜逃走したれば同店にては適切り郷里に歸り居るものと察し相當手續きをなしたるに果して貞次は神戸に走り兵庫今和田新田にて賭博をなし沼田虎吉なる者のため悉皆捲き上げられ同地大開通を徘徊し居たるを十七日兵庫署の爲に取押へられたるが貞次は前記金額の外なほ三四百圓を費消し居るより目下同署にて取調中なり

●電車道に怪しの死体

▲身元不明人夫体の男

一昨日午後四時三十分頃何者とも知れず電話を掛けて只今西部青坡通の東端なる電車軌道に壹名の韓人變死し居る旨を報ずるにぞ當番巡査は斯くと警察醫に通知し醫て警部同道現場に出張檢視を爲せしに死者は二十四五歲の人夫体の男にして全身に痘痕斑點し兩眼は半開し如何にも死の爲めに苦しみたるもゝ如く頗る慘状を呈し居たるが醫師の語る處に依れば同人は痘瘡の爲め死したるものにて多分家族等の者が死体の所置に苦み投棄したる者ならんとされば同署にては引取人なき爲め區長をして埋葬せしめたり

●產屋は監獄と極る

霜白く地を覆へる一昨日の早朝龍山分署へ引致されたるまんざらならぬ女あり生れは東京本郷區竹町二十七番地にて平民米山ソイと云へる生粹の江戸兒なるが年は當年三十歲と云へる艷櫻なるに最早袖ぜころか吾妻コートにも匿し切れぬ七月と云ふボテレン腹を突出し居るにぞ一見亭主持と覺へしは恐か底に底ある蓋を叩いて見ると是は怪しからぬ彼れは本年一月渡韓せしも元より何等の目的あるに非ず又餘分の金とては一文もなければ親に貰ちつた肉を賣り長谷川町から太平町さては本町裏通りに出沒し數多の色餓鬼共に肉の賞味をさしたる揚句が何者共知れぬ因果の胤を宿し思案投首の折柄豫て知り合なる南大門外に居住する山岡谷吉といふがあるにぞ是れ屈竟と憶面もなく同家に入込み種々哀願して身二つになる迄の厄介を願みしばしが程はすめ〳〵しく立働き居たるも根が横着者の事とて何時しか夫婦の不在を見計ひ金錢等を猪呂魔化し居たるが追て嵩じて去る十日山岡の絹羽織二枚と同人女房の縮緬の帶二筋を盜出し本町裏通りなる南質店に入質して知らぬ顏の半兵衞さんを極め込み居たるを遂に銅峴分署の知る處となり斯くは引致されたる次第なりと是れで產屋は監獄と極まり出產費用產湯迄官費とはチモ厄介の代物

●白銅僞造の檢擧

▲滋賀縣人

高等警察及び大津地方裁判所檢事局にては密々何事か檢擧をなすべく準備し居たるが果して去る十七日突然鈴木豫審判事は山內檢事、吉丸高等警察主任等を共に同縣甲賀郡貴生川村大字鵜川に出張して同村の山中安右衛門（三八）方の家宅搜査を行へり其の內情は豫審に亘るを以て詳報し難きも元來滋賀縣にては三十六年頃より韓國白銅の僞造物多く流通し殊に甲賀郡地方より韓國へ白銅を輸出する者多きより內偵の結果山中の擧動怪しきを知り遂に家宅搜査を行へるならんといふ同人は三十六年大坂にて白銅を僞造し共謀者は當時大坂にて檢擧されたるが山中は巧に逃れて原籍地に歸り密造したるものなりと隨つて其の製造高は非常に多額にして連累者も多かるべき見込なりと云ふ

●梅子の舞戻り

新町遊廓松樓抱女郎梅子事本名木村スエ（二三）が新町病院に入院中情夫とドロンを極めたる事は其當時の本紙に掲載せしが能々惡い星の下に生れる者のことゝて去る十日龍山の匿れ家にて樓主から押取へられ、再び元の古巢へ舞戻り、爾來毎晩神妙に張店を爲し居れるが、無屆の外泊は不都合なりとて其筋より壹圓九十錢の科料に處せられしとは是れが本當の泣つ面に蜂

●那威船の難船救助

本年八月廿七日『ノース、サツトル島』の北方七十哩の沖合に於いて難破せる朝鮮船は折柄航行中の那威國汽船サルフォード號の爲めに發見救助せられ乘組韓人五名（姓名不詳）は清國靑島獨乙官憲に引渡したる由にて東京駐在の那威國公使館より外務省を經て統監府へ通告ありたり

●韓人のヘマレケ

南部板洞居住金鎭元（三〇）は一昨日午後三時半頃南部銅峴通にて大に醉拂ひ通行人に對し惡口雜言を吐き遂には暴行をもなしかねまじき有樣なるより巡査出張して銅峴分署へ引致し醉の覺めたる後ち說諭を加へて放還せしとは厄介の奴

●薪を盜んで捕はる

西部盤石坊蛤洞六十三統尹東俊（三五）は一昨日午後八時四十分同洞居住栗原悦次郎物置より薪を盜み出して巡査に捕はれ西部警察署へ引致さる

內外科眼科 婦人科 花柳病
本町八丁目三〇番戶
山中醫院（元山崎病院跡）

獨舞臺　なにがし

酒を呑めば醉ひ倒れるは當り前だが、懸替の無い命まで倒すものが、隨分澤山ある、此程近かれた井上大將も日頃の大酒が原因らしい、又新橋の名物藝妓ちゃら次も酒の爲め又近くは仁川鮮樓の大吉も大酒が原因で地獄へ行た、自分も本年の一月には大酒の爲め隨分身体を痛めたで、來る新年には大に愼む積りだ酒を呑めば害あつて利益のないことは、十數年來の實驗に依つて認めては居るが、マダ禁酒する程の勇氣もない▲近頃入簽敷き莞島問題で堂々たる役人や、其他の紳士連の中にもドウやら酒の爲め中毒した者があるらしい▲在韓の人々が多く酒色にのみ耽るのは要するに他に適當なる娛樂がないからだ、此時に當つて日日社のタノシミ會や、長唄嗜好會を今少しく擴張して欲しい▲又某々有志者は近々百名以上の會員を募集して一大歌留多會を催す計畫ありと聞く、吾人は此種の會の續々起らんことを望むものである▲本町筋や明治町邊は何れも聯合して大賣出しを爲し、各店頭は隨分立派に裝飾せられ、殊に夜中の光景は立派な者だ▲特種の商店を除くの外は店頭の裝飾が客を招く唯一の手段たるは言を要せないが、此點に於て京城の商人は中々巧者なものである

●天氣豫報（自廿一日午後六時 至廿二日午後六時）

南又西風晴

二十日午前六時各地氣象概況
高氣壓は韓國中部にありて區々の風吹き一般に快晴なり

廣告

鴨綠江特種木材 九州セメント取次販賣
末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材
京城旭町三丁目
建築業 柴田芝六 電話五六八番

土耳古金口煙草GD
インペリアル
茶褐色スポルト
各種
京城代理店 歐米雜貨商
京城本町六丁目
（吉）岡野商店 電話（五七一番）

明治四十二年一月一日午後一時京城本人俱樂部に於て新年祝賀の爲め名刺交換會開催候に付御贊成の諸君は會費金五十錢添付十二月二十五日迄に京城居留民團役所へ御申出相成度此段廣告す
發起人（いろは順）
石塚英藏 池田十三郎 今井忠雄 市原盛宏 石川石代 岩谷龍太郎 戶叶薰雄 岡喜七郎 大岡力 若林賚藏 和田常市 俵孫一 中村再造 倉富勇三郎 熊谷賴太郎 山形閑 小宮三保松 荒井賢太郎 佐藤象毅 木內重四郎 三浦彌五郎 峰岸繁太郎

產婆開業
明治町一丁目五十九番戶
中島圓子

西洋料理 東京高輪壽し 會席料理 丼類いろ〳〵 折詰辨當 同サンドーウヰッチ
南大門停車場構內
エーテー淵田

京城南大門
合名會社 日韓組
稅關貨物取扱

和洋 暖爐販賣 並に附屬品一式 煙突取付請負
京城本町五丁目一番戶
馬木勇吉 電話四七一番

年暮年玉用菓子 特別大割引
東京流生菓子 箱詰
カステイラ 折詰
西洋菓子 鑵詰
其他菓子一式
右御進物用として高尙優美なる品澤山調製有之候間多少に不拘陸續御用命奉願候
龍山旭橋通り 東京堂
同本町二丁目入號官舍前 東京堂支店

京城本町三丁目
合名會社 明治屋京城支店
電話二一一二番
英國トムスミス社
クリスマス陳列
クラッカー、ストッキング、チンセルトーイ、ドールグラストーイ、
キリンビール 一打半打の美麗なる化粧函入
キリンビルスナビール
其他洋酒、洋菓子類年末年始贈答品
東京橫濱太阪神戶門司本支店共通の便利なる商品切手調進仕候

改良品
卷莨

京城
廣江商會
電話五七六番

歲暮大賣出し
廿日より三十一日まで
現金に限り正札より二割引
但赤札は此限りにあらず
其他大見切品あり
舶來雜貨 足袋卸 商
京城本町六丁目
中塚支店

大勉強廣告
各國時計貴金屬 眼鏡類各種
本町一丁目（郵便本局前）
小林時計舖
本町二三丁目聯合大賣出ニ加入シ本月十六日ヨリ三十一日迄御買上金五十錢毎ニ大景品券一枚ツヽ進呈ス
弊店ハ特ニ正札ヨリ一割引ヲ以テ販賣仕候間陸續御來店アランコトヲ奉希上候
但シ純金製ハ割引ナシ

嶄新德用燃料
無煙煉炭
●特色 火付善く火力耐久價格低廉
●用途 汽罐、暖爐、竈用に適す
●周防德山海軍省煉炭所東隣
谷口無煙煉炭工場
京城特約店 京城南大門通 電話六〇三番 **巴商會**
韓國一手販賣 京城太平町二丁目 **神田組**

廣告

當行發行の拾圓銀行券は今般左記説明の如く改版致候該改版券は來る明治四十二年一月四日より發行し在來の舊券と並用可致候間此段廣告候也

明治四十一年十二月

株式會社 **第一銀行韓國總支店**

改版拾圓銀行券の樣式概説
一 縱三寸〇五厘橫五寸三分にして表面の右方には韓國昌德宮宙合樓の異景を圖し左方には楕圓形の空處中に韓國章に櫻花を添結したる透込あり
一 文字は日、韓、歐の三國文字を使用せり
一 色彩は表面は綠青色淡紅色橙黄色を分彩し裏面は濃茶褐色淡綠色を分彩したり

▲開店御披露▼

於京都開設五二全國共進會金牌受領
於巴里萬國博覽會金牌受領
於第五回內國勸業博覽會金牌受領
於九州沖繩八縣共進會金牌受領
於大藏省設立東京釀造試驗所主催全國清酒大品評會優等金牌受領

釀造元 福岡縣三井郡追分 **富安猪三郎**

富の壽 菊世界 **販賣部** 京城壽町三丁目 **楠彌作**

右銘酒は各博覽會共進會品評會に於て**金牌銀牌**を受領せしこと實に**數十回**にして其醇良なるは喋々を要せず今回前記の場所に**販賣部**を設置し**去る十日**より**開店**致し候に付御披露の爲**卸小賣**とも**大廉價**を以て御需用に應じ申候間多少に不拘御購求の程伏して奉希上候 敬具

一清酒二挺御買求の方へは久留米絣一反宛
一清酒一挺御買求の方へは久留米縞一反宛
其外小賣にも夫々景品進呈可仕候

石炭 直輸入

京城旭町一丁目 **島與商會出張所** 取次(電話七四五番)

(ストーブ用は一俵以上配達可仕候)

諸印刷 名刺 ハガキ

京城南大門通り **仁川活版支店**

景品付 聯合大賣出し加盟店
金五十錢毎に景品券一枚進呈す
●地方より御注文の方は引換小包に應ず料金は弊店にて相働き申候尚御足に合はざるときは御返戻の事

米國製銀判 ボックスキャフ 繡上ゲ靴 **六圓**
獨逸製銀判 ボックスキャフ 繡上ゲ靴
牛ボックスキャフ 裁繡上ゲ靴 **四圓九十錢**
和キッド 繡上ゲ靴 **三圓五十錢**
米國製銀判 ボックスキャフ 深ゴム 一枚革製靴 **六圓五十錢**

京城本町一丁目理事廳橫通 **富田製靴店**
京城本町六丁目 **富田支店**

▲轉宅荷物運搬

(京龍間建築土木材料其他諸貨物の運搬及び人夫請負)

弊店儀今般右の營業を開始仕候に付ては貨物の多少又は土地の遠近に拘はらず御報知次第直ちに店員を派出して御用命に應じ可申尚は弊店は責任を重んじ万一御委託物に對し店員の不注意より損害を加へ候節は弊店に於て其**賠償の責**に任じ決して御損失は相掛申間敷候間續々御用被仰付度此段謹告候也

京城南大門通り二丁目二十番戸三浦商店向側
有田運送店 店主 有田豊太郎

●此際非常なる大勉強を以て
東京出來合 **洋服類各種**
特に御婦人用コートインバニースは
弊店の特色とする處にして裁縫の親切なる事御誂らへ品と變りなく廉價なるを以て至極經濟的且つ東都に於ける最新流行珍柄類百種

京城本町三丁目 **田中洋服店**

新製刻莨 **薩摩富士**
大賣出し御披露として本月中は特に明治町聯合賣出し景品引替券四十目入一袋毎に一枚を進呈す

各國煙草並人力車用蠟燭卸商 明治町一丁目 **ま商會**

開店廣告

GD トルコ高等金口煙草
品質精撰、香味佳良、裝匠艶麗
年末御贈答適當品

右今般開店仕候に付ては多少に不拘御用命被下度奉願上候

京城明治町一丁目(漢城病院前) **トルコ烟草商會**

待合席貸 開業御披露 松の家

今回待合席貸を開業仕候に付ては一般諸邪を改め華客の御注文に應ずべく候間賑しく御來遊被下度奉願上候敬白

壽町二丁目

嶄新發明 三德炬達

本コタツの特色は其名稱の如く
第一德用 僅かの炭火を以て長時間の温熱を保つ故に最も德用なり
第二安全 如何に轉倒せしむるも火氣の漏るゝ憂なし故に最も安全なり
第三輕便 重量極めて輕きが故に最も便利なり

軟らかなる温度の心地と三德の功用とを一度試用の上御高評あらんことを希ふ

賣捌所 明治町一丁目 **田中蓬萊堂藥房**

◉支店開業披露◉ かしわすき焼

一 かしわ 御一人前 二十錢
一 牛肉 同 十二錢
一 海魚 同 二十錢
一 茶碗むし 二十錢
一 親子丼 二十錢

京城明治町一丁目 元菊紋跡 (万) **仁川支店**

大景品附歳暮大賣出し

謹啓向寒之砌各位益々御清穆奉賀候弊店も御陰樣にて滋々隆盛に趣き候段誠に難有仕合に存候偖て本年も節期愈々相迫まり年內餘日なき折柄聊か平素の鴻恩に報ひんが爲めに破格の勉強を以て特別に廉賣仕り其の上景品進呈仕候間陸續御購求の程奉願候 敬白

賣出期間 (自十二月十五日 至十二月卅一日)
景品券は (金五十錢毎に一枚 御賣は三圓毎に一枚 樽物は二圓毎に一枚)
(但し米、石油には景品なし) 景品は即時御渡申候

京城本町五丁目 ㊅ **大上商店** 電話二五一

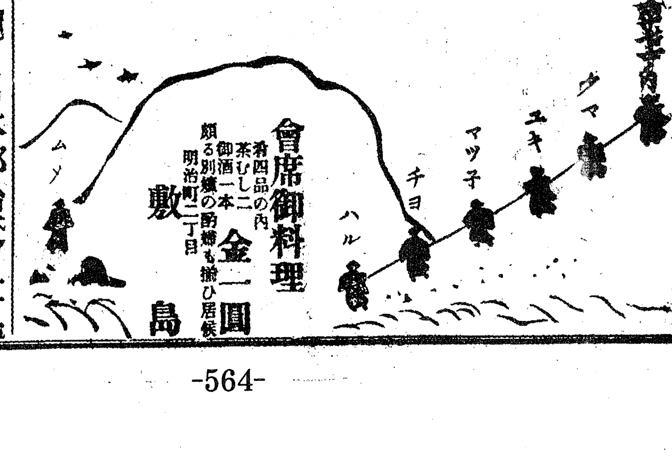
景品總額金壹千圓 御進物用好適品
和洋酒類、穀物、麵類、銘茶、罐詰、乾物、荒物食料、雜貨、尤上奈良漬樽詰、砂糖桶入、最上鰹節等、其他種々
御望により商品切手を調製仕候
景品券には一本も空籤なし

開業廣告

今般左記の處に於て待合並に席貸營業致候間御來遊被成下度願上候也 敬白
京城本町五丁目三十八番戶
月の家 電話一二四番

代書

金談、貸借、土地家屋賣買 周旋
龍山老松町(民役所前) **堀昇**



會席御料理
肴四品の內 茶むし二 御酒一本 金二圓
頗る別嬪の酌婦も揃ひ居候
明治町二丁目 **敷島**

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

電話十番 仁川海岸通 **郡回漕會** 電話三九番
貨物及船客取扱店 京城南大門通 **巴商店** 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戸行 山東丸 十二月二十日後三時出
●大連行 高砂丸 一月三日後一時出
●大連、芝罘、秦皇島行 山京丸 一月三日前五時出
●大連行 酒田丸 十二月廿三日正午出
●釜山出帆、浦鹽行 立神丸 十二月廿三日

注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄御送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金五十錢 三ヶ月 ●廣告料 五號活字十九字詰一行 四號活字十九字詰一行
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社